

★ ポスト2020目標 (1)IPBES報告書

■ IPBES報告書の要点

- ①生物多様性の減少は人間活動に起因するものであり、その要因は影響の大きいものから順に次のとおり
 - ・土地及び海洋の利用の変化
 - ・生物の直接利用
 - ・気候変動
 - ・汚染
 - ・侵略的外来種
- ②生物多様性の悪化は、貧困、飢餓、健康、水、都市、気候、海洋、森林などに関連する44のSDGsターゲットのうち、35（80%）の進捗を遅らせる要因にもなっており、単なる環境の問題ではなく、開発、経済、安全保障、社会、規範などの多くの分野に関連する課題である
- ③このままでは愛知目標やSDGsは達成されない。しかし経済・社会・政治・科学技術の横断的な**社会変革（transformative change）**により、2030年そしてそれ以降の目標を達成できる可能性がある

★ ポスト2020目標 (2)GB05

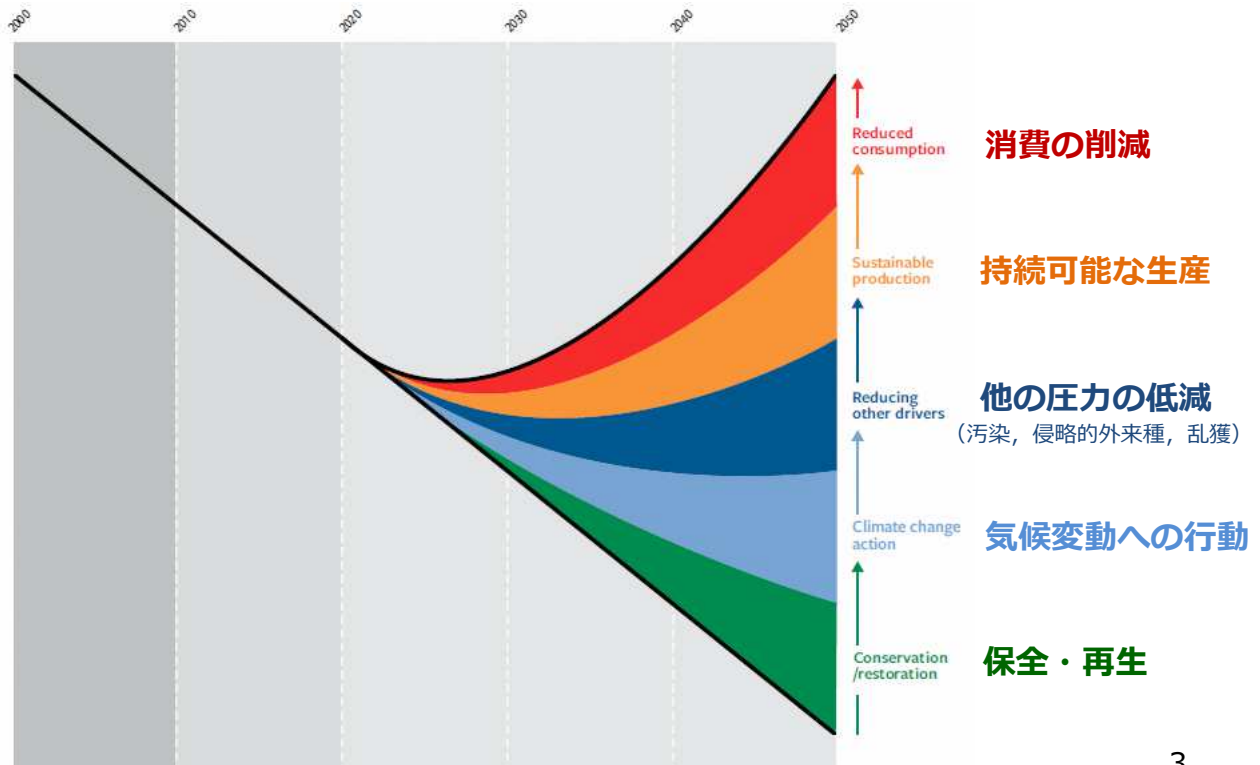
■ GB05の要点

- ①愛知目標の20の個別目標のうち、完全に達成できたものはない
6つの目標が2020年の達成期限までに部分的に達成
20の個別目標に含まれる60の要素のうち、

7要素:達成	4要素:達成から遠ざかる
38要素:進捗したが未達成	2要素:進捗は不明
9要素:変化がない	
- ②未達成の理由として、愛知目標に応じて各国が設定する国別目標の範囲や目標のレベルが、愛知目標の達成に必要とされる内容と整合していなかった ←愛知目標と十分一致している全国別目標は23%に過ぎない
- ③2050年ビジョン“自然との共生”の達成は、生物多様性の保全・再生に関する取組のあらゆるレベルへの拡大、気候変動対策、生物多様性損失の要因への対応、生産・消費様式の変革及び持続可能な財とサービスの取引といった**様々な分野での行動を、個別に対応するのではなく連携させていくことが必要**

★ ポスト2020目標 (2)GB05

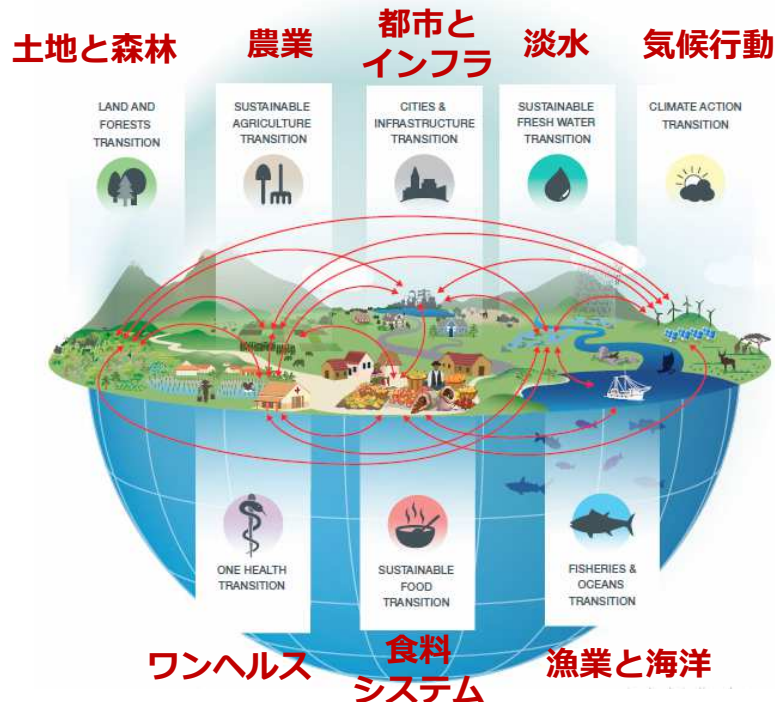
■ 生物多様性の損失を低減し回復させるための行動



(Global Biodiversity Outlook 5, <https://www.cbd.int/gbo/gbo5/publication/gbo-5-en.pdf>)

★ ポスト2020目標 (2)GB05

■ 2050年ビジョン達成に向けて変革・移行が必要な8分野とその関連性 (transition)



(Global Biodiversity Outlook 5, <https://www.cbd.int/gbo/gbo5/publication/gbo-5-en.pdf>)